

第4章

江戸川区のこれまでの適応策

第4章 江戸川区のこれまでの適応策

1. 江戸川区は水害に対する備えが生命線です

(1) 江戸川区の地形は、「洗面器の底」のようです

区は、荒川・江戸川等の大河川の最下流に位置した場所にあります。

都心側を荒川に、千葉県との境を江戸川・旧江戸川に、最南端を東京湾に挟まれ、北側以外の三方向が水に囲まれています。

また、川や海の満潮時の水面より低い「ゼロメートル地帯」が区内の約7割に広がっており、区内一帯が「洗面器の底」のように水が溜まりやすい地形になっています。



図4.1 江戸川区の全景空撮

今までに経験したことがないような巨大台風や豪雨により、関東地方の山々から大量の雨水が河川に流入すると、下流部では河川水が堤防を超え、破堤することにより、大洪水が発生するおそれがあります。

もし、区でこの事象が起こると長いところでは2週間以上も水に浸かると予想されています。



図4.2 河川図

2. 水害に対する備えは「自分ごと」です

水害で浸水した状態に陥ってしまうと、強い水流の力や川から流れてきたもので家が壊れたり、水浸しになったりしてしまいます。

また、その影響により、怪我を負ったり命を失うこともあります。身体に被害はなくても、腰まで水に浸かったり濁流に足を取られて恐怖を感じることもあるかもしれません。

たとえ、家が無事だったとしても、電気や水道等のライフラインが使えず普段の生活を送れない場合や周辺に水が溜まり、陸の孤島になってしまう地域や高層マンション等が発生し、学校や仕事に行けなくなる可能性があります。

区民にとって、水害は「他人ごと」ではなく「自分ごと」なのです。

一人ひとりがこのことを忘れずに、日頃から水害に対して備えることが大切です。

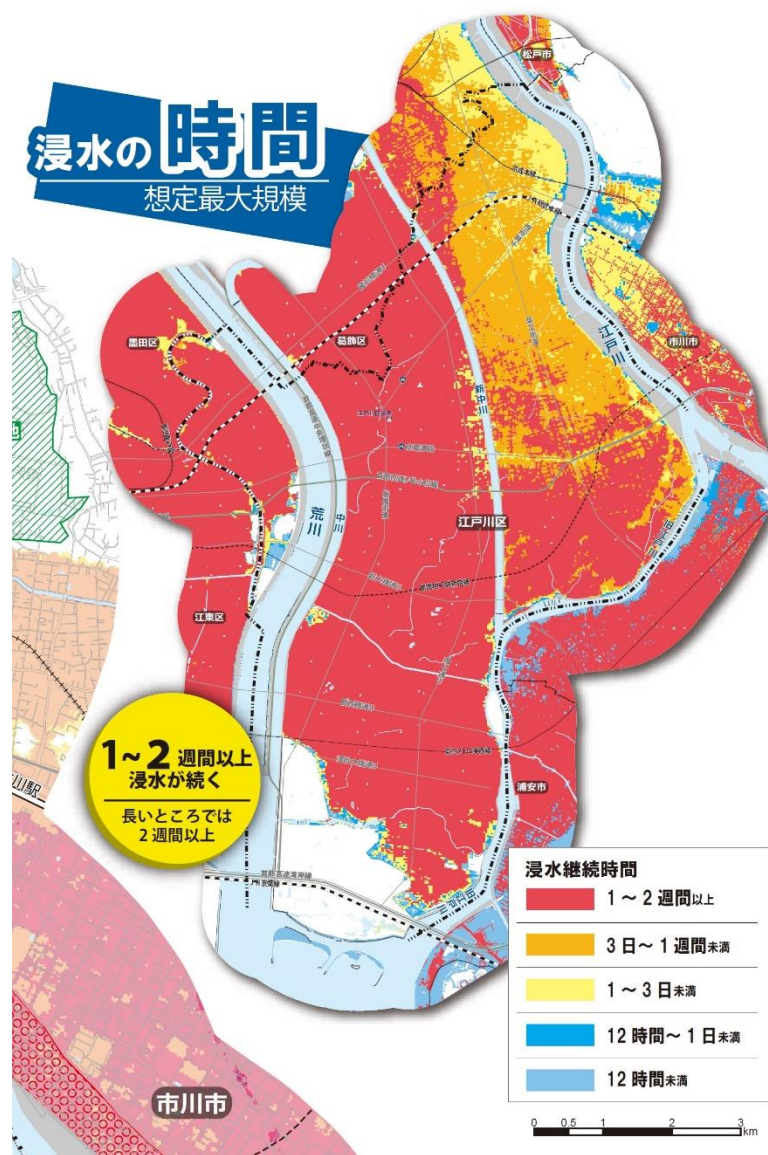


図 4.3 浸水の時間

3. 江戸川区の歴史は水害との戦いです

(1) 江戸川区は、上流からの洪水や海からの高潮の影響を受けてきました

東京湾最奥にある区は、台風などに吹き寄せられた海水の逃げ場がないという地形上の特徴があるため、台風や発達した低気圧が海岸部を通るときに海面が高くなり、加えて強風により海水が内陸に吹き込んでいく「高潮」という被害を何度も経験しました。この「高潮」は、昔は「風津波」と呼ばれており、人びとに恐れられていました。

1947（昭和 22）年のカスリーン台風では利根川の堤防が決壊して約 13 万人が被災し、1949（昭和 24）年のキティ台風では高潮などにより、区民の約 3 分の 1 にあたる約 6 万人が被害を受け、区内では比較的内陸にある平井駅周辺も船で救出活動を行うなど、広い範囲で浸水しました。



図 4.4 平井駅の浸水状況（左） 浸水状況図（右）

(2) 2019（令和元）年 10 月には、初めて「避難勧告」を発令しました

水害は、昔の話ではありません。

令和元年東日本台風（台風第 19 号）の襲来時（2019（令和元）年 10 月 10 日～13 日）は、荒川水系の下流域で氾濫が想定されたことから、新中川より西の地域に、区政史上初めて、災害対策基本法に基づく避難勧告（清新町・臨海町は除く）が発令され、水害に備え避難所が開設されました。

小・中学校等 105 施設に避難所が開設され、一時は 35,000 人以上の区民が避難しました。これは、水害による脅威が「現実」のものとして直面する危機を区民が実感する出来事となりました。



図 4.5 避難所の様子
（葛西小学校・中学校）

(3) 「ここにはダメです」で全国的に有名になりました

区の歴史は水害との戦いと言われています。江戸時代から水路や堤防の建設を行い、被害が出ないように先人も努力してきました。

2019（令和元）年の東日本台風（台風第19号）襲来時も、気象条件が少し違えば大規模な被害が発生していたかもしれません。

区は、国や東京都と連携して堤防や高台の整備等のハード面でのまちづくりを進めるとともに、ハード面でカバーしきれないところをソフト面でさまざまな対策を行ってきました。

一例が、「ここにはダメです」のフレーズで全国的にも有名になった「江戸川区水害ハザードマップ（2019（令和元）年5月発行）」です。このマップでは、今までに経験したことがないような大規模な水害が起こったら“どうなるか”、命を守るために“どうするか”を区民にお知らせするために作られました。この中で、台風等の影響が強く出始める前に、区外へ逃げる「広域避難」を強く推奨しています。避難に備えて、あらかじめ広域避難の計画を考えておきましょう。

2021（令和3）年には、区民であればどなたでも利用できる「大規模水害時自主的広域避難補助金制度」（最大9,000円、1人1泊3,000円を3泊まで）を創設しました。大規模な広範囲の水害の発生が予測される場合は、影響が出る前に浸水のおそれがない他の地域へ逃げるのが最も有効です。



図4.6 水害ハザードマップ

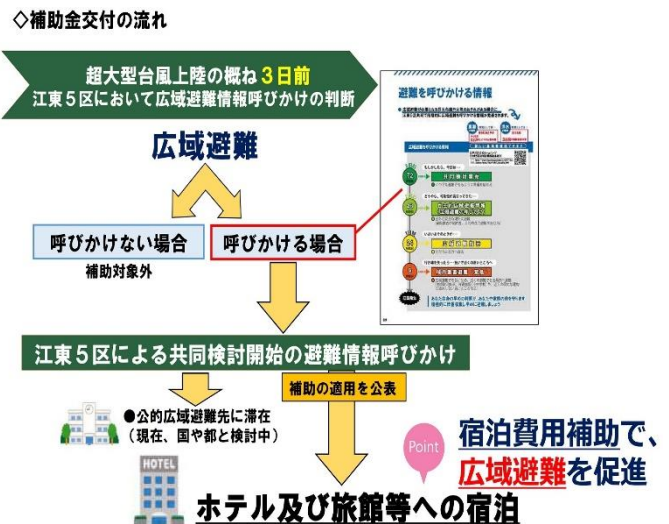


図4.7 広域避難に伴う補助金申請について



図 4.8 わが家の広域避難計画